

6-4

犬のいる生活

癒し

第三南陽園におけるアニマルセラピー

クロ太郎・ピーターとの出会いを通じて

特別養護老人ホーム 第三南陽園

発表者：ケアワーカー 越野 裕介	共同研究者：ケアワーカー 阿部 志麻
所在地：東京都杉並区高井戸西 1-12-1	共同研究者：ケアワーカー 浜島 啓子
TEL：03-3334-2193	E-mail：info-dai3@yokufuukai.or.jp
FAX：03-3334-2198	URL：http://www.yokufuukai.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	85年の歴史をもつ社会福祉法人浴風会が、3番目の特養として平成14年に開設した、入所207名、ショートステイ15名の従来型施設です。都心近くにありながら豊かな緑に囲まれた環境のなかで、グループケアを提供しています。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">入所されて以来表情が硬く、発語もなかったご利用者が犬好きだと伺い、触れていただく機会を設けたところ、表情が和み「可愛い」と声を出されたのをきっかけに、学校の協力を得て始めた動物介在活動を通じて、月1～3回の活動を心待ちにしているご利用者が多いなか、日常的に犬と触れ合える環境を作ることにより得られる効果を検証した。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">動物介在活動に見えている学校に相談し、2頭の小型犬（ミニチュアダックス、チワワ）を譲り受け、4フロアの中から2階・3階で飼うことを決定した。学校担当者と学習会を行い、飼い方など連携して犬と関わっていくことを確認しあった。散歩ボランティアを募った。ご家族の方が喜んで名乗り出て下さった。ご利用者の行動変化を観察・記録した。犬の様子を見ながら他のフロアに出かけて、より多くのご利用者とは接する機会を持つ等の試みを行った。犬と日常的に触れ合える環境から得られる効果を検証するために、ご利用者、ご家族、職員にアンケート調査及び聞き取り調査を実施した。 <p>〈倫理的配慮〉</p> <p>この発表に当たり、対象者及びご家族には発表目的、発表方法などについて説明し、同意を得た。</p>	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ol style="list-style-type: none">ご利用者の行動変化<ul style="list-style-type: none">犬に会うために、なかなかさならなかった車椅子自操をされるようになった。落ち着きをなくす方が、犬と触れ合うことで気分転換が図れて状態の解消に繋がった。ご利用者のアンケート結果<ul style="list-style-type: none">犬が来て良かった：39%、どちらともいえない：45%、悪かった（嫌い）：16%職員のアンケート結果<ul style="list-style-type: none">とても良かった・良かった：48%、どちらともいえない：30%、余り良くない・良くない：20%ご利用者、職員、ご家族からの聞き取り調査結果<ul style="list-style-type: none">大好き。いつでも触れられるから近くにいることは良い（ご利用者）、面会に来るのが楽しみ（ご家族）等のご意見、利用者・ご家族・職員間のコミュニケーションの機会が増え、フロア全体の笑顔が増えた等の職員意見があった。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">アンケート結果及び、清潔感を感じないからあまりいてほしくない（ご利用者）、「放し飼い」だけは止めて欲しい（ご家族）、現状の労働体勢の中で業務増加は歓迎できない（職員）等の意見も踏まえた飼育方法の検討。高齢になり病気等で世話が必要になった時に備え、施設としての責任ある対応の検討。
--	--

【メモ欄】